

を迂回したればなり。五臺の西北方約二里の邊に、尖頂の一山脈を望み、又南山は近く一里内外の處に聳ゆ。

八日道路沙礫、緩なる上傾斜を以て、行程約十二里、（又素圖布拉克と稱す）四臺（又鄂勒著依圖博木と稱す）に到る。其の南山に始めて松樹の繁茂するを望む。蓋し本日の行程は全く山路なるに、一の流水を見ず。又前日來の暑氣頓に減じて、僅に日中六十二度を示すに過ぎざりき。

## 二、賽里木湖畔夏尙ほ寒し

九日の行程は略々前日と同じく、三臺（又鄂勒著依圖博木と稱す）に投宿。雅碼圖よりの捷路此に相會ふ。道路は昨日と大差なく、山路上り盡せば僅に下て嶺上に一大湖を湛ゆるを見る。此れを賽里木の鹹湖（周圍約五十里餘）と爲す。三臺は其東南端に在りて人家僅に十二戸、此附近は南山北山共に松樹茂り、頂上今猶ほ雪を存し、湖面も未だ薄氷に掩はる。湖岸解氷するもの數十米突、鴨類の水禽其間に群游し、湖水は頗る清澄にして湖底の礫石明瞭に數ふべし。湖水面は海拔實に四千尺の高きに位置するが故に、風常に強く、方向更に定らず、湖邊常に白氣を認む。

湖水には魚類棲息せず。土人は其の水禽を捕れば風雨の變り有りと云ひて捕

山上の大湖

水禽と迷